

第3回 沖縄戦漫画の世界

6月23日は、慰霊の日です。

沖縄戦を扱ったマンガの代表といえば、地元沖縄漫画界の代表・新里堅進氏の「沖縄決戦」「水筒」などですが、それら以外にも本土出版社で様々な方が描いた沖縄戦のマンガが出版されています。今回は県内で出版された県産本以外の、知られざる沖縄戦関連作品群を中心に紹介してみたいと思います。



さて、最初に紹介するのは、最も古いもので、「ゲゲゲの鬼太郎」でお馴染みの水木しげる氏の「沖縄に散る」(「ああ特攻」宙出版刊・収録)

沖縄・首里市出身の戦闘機パイロットの兄とひめゆり部隊に入った妹が、戦場で再会するという奇跡的な話。

本作は、貸本漫画「暁の突入」(1958年)のリメイク作品であり、沖縄戦に対する当時の本土の方々の知識・理解というのがどのようなものであったかがわかります。



「摩文仁の白い雪」あおきてつお著(「赤い靴はいた」草土文化社刊・収録)は、学校図書館や公共図書館でも児童図書としてそろえているところが多いので読んだ方も多いかと思います。

戦火で焼け野原となった白いさんご礁の大地を白い雪野原のイメージとダブらせるラストが印象的です。

このラストシーンのインパクトが長く記憶に残っているという方もいるようです。



「祖国への進軍」・三枝義浩/著(「戦争の記憶1」講談社刊・収録)は、日系2世の米兵として沖縄戦に参加した比嘉武二郎氏の話をもとにしたもの。

戦火の中失われていく同じウチナンチュの命を救おうと奮闘した比嘉氏の必死の思い、願いがひしひしと伝わってきます。

海外移民が多かった沖縄であったが故に起こった悲劇と奇跡が描かれます。



「キジムナー」・かずはしとも/著(「いばら姫」ぶんか社刊・収録)は、ホラー作品集のひとつとして収録されています。

負傷した米兵をキジムナーとしてかくまう姉妹の話。ヒューマニズムがふみにじられる戦争の残酷さを子供の目線で伝える短編作品です。



「草の碑」・金子節子/著(秋田書店刊)は、女性誌に掲載されたひめゆり部隊を題材にした作品。



作者は、「命どう宝」(秋田書店刊)でも沖縄戦を取り上げて作品化しています。どちらも、平和に対する思いの強さが伝わってきます。



「外科医東盛玲の所見」第5巻(池田さとみ/著朝日ソノラマ刊・収録)第4話「ニライカナイ」では、霊の姿を見ることのできる外科医・東盛玲が高校生の時、修学旅行先の沖縄で体験した不思議な話という形で、沖縄戦の悲劇を伝えています。

心霊現象という不思議話でくるんで、沖縄戦のテーマを扱っているので、戦争物は苦手という方には読みやすいかもしれません。



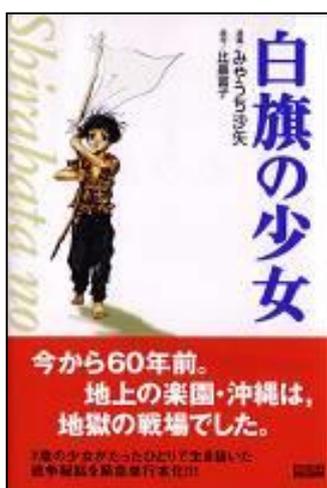
「白旗の少年」・北川玲子/著は、戦争に巻き込まれた母と幼い子供たちの生き様を描いた作品です。（「戦火の中の子どもたち」ぶんか社刊・収録）

絵柄はかなりクセがありますが、悲惨な沖縄戦の戦場をこれでもか、これでもかと描ききっています。



「あの夏の日に」・いしかわまみ/著は、架空の学徒看護隊に従事した少女のお話。（「1945年 10代の戦争」講談社刊・収録）

戦争の悲劇を少女マンガで取り上げ、若い世代でもとっつきやすくした作品です。



「白旗の少女」・みやうち沙矢/漫画（講談社刊）は、少女まんがではあるけれども、比嘉富子氏の原作実話を元にしただけあって、住民の目線で捉えた沖縄戦の悲惨さ、そして懸命に生き抜く人々の姿が描かれていて、とても感動的な作品です。

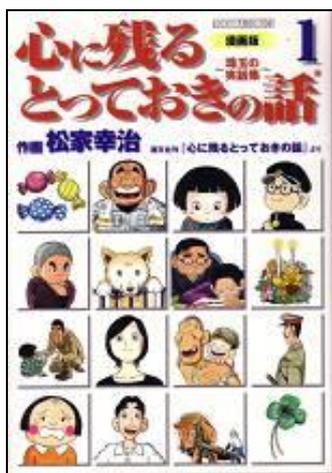
私のお薦めの作品のひとつです。

「さとうきび畑の村の戦争」谷口敬/画は、NHKの番組「その時歴史が動いた」のコミック化作品。（「その時歴史が動いた 太平洋戦争編」ホーム社刊・収録）

「ざわわ〜♪」ではじまる「さとうきび畑」の歌詞で締めくくられるラストは、マンガの読後感と歌詞が相乗効果で感動を盛り上げ



てくれます。
ちなみに舞台は西原町です。
文庫本サイズのシリーズの1巻です。



「赤いランドセル」松家幸治/画（「心に残るとっておきの話 漫画版1」 徳間書店刊・収録）

沖縄戦に従軍した兵士は、戦火の中、防空壕で出会った幼い女の子に水筒の水を与える。

その時、兵士は、軍国主義教育を受け戦争を始めてしまった大人としての罪の重さ、戦争の愚かしさに衝撃を受ける。戦後、女の子の行方を捜すが……。

18pのショート・ストーリーですが、本当にあったことのようにです。

この他、絶版等により入手困難な作品として、以下があります。



◀「ああ七島灘に眠る友よ！」・木内千鶴子/画（「嵐 吹きすさぶとも」）（ほるぷ社刊 絶版）収録）

対馬丸遭難の悲劇を取り扱った作品です。

以前、作者のHPで内容が公開されていました。

「また会う日まで」、「炎のサンゴ礁」2作品とも鈴原研一郎/著（「また会う日まで」ほるぷ社刊（絶版）収録）▶



◀「地獄島」・旭丘光志/著（「ある惑星の悲劇」ほるぷ社刊（絶版）収録）

慶良間の集団自決の悲劇を扱った作品です。



◀「対馬丸沈没事件」・田丸ようすけ/著、「ひめゆりの最期」・大塚恵子 [TOY] /著（「OKINAWA オキナワ 平和をつくる」(第三文明社刊)収録)

県内公立図書館で閲覧できるかもしれない。

「ああ沖縄健児隊」・梅本さちお/著
「週刊少年マガジン 1968年」(講談社刊・収録) ▶



◀「ああ沖縄！」・木内千鶴子/著 「別冊マーガレット 1972年」集英社刊・収録(未単行本化作品)

※続編は戦後の沖縄を取り上げています。

「ひめゆりの少女たち」・近藤厚子/著 「まんがグリム童話 2007年」ぶんか社刊・収録(未単行本化作品) ▶



「悲しみの島オキナワ」(吉森みきを/著)「りぼん 1970年 3/1号」掲載(未単行本化作品)

※詳細不明。

「玉砕の島」・一川未宇/著 「月刊まんがグリム童話 2007年」ぶんか社刊・収録(未単行本化作品) ▶



※慶良間の集団自決を扱った作品。

「ひめゆりの歌が聞こえる」(阿武わたる/著)「月刊まんがグリム童話 2015年」ぶんか社刊・収録(未単行本化作品) ▶





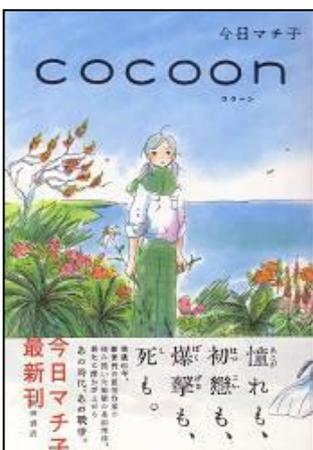
◀「冥土からの招待」「うじ虫の歌」・中沢啓治/著 「オキナワ」 汐文社刊・収録（公共図書館所蔵あり）



◀週刊マンガ日本史第 49 号「ひめゆり学徒隊」
(ふくやまけいこ/著 朝日新聞社刊)

ひめゆり部隊を取り上げたマンガとしては、最もキャラクターがかわいく描かれている作品です。

……それにしても、沖縄戦を描くとなるとどうしても残酷なシーンが出てくるのですが、作者は、それを子ども向けに抑えて、よくまとめたものと感心します。



「c o c o o n (ココーン)」(今日まち子/著 秋田書店刊)

新聞でも取り上げて紹介されたことのある作品。

装丁や使用されている字体が古いタイプのもので、昔の漫画や絵本を読んでいるような錯覚を起こさせます。それでも内容は、しっかりと沖縄戦の悲劇をたんと綴っていて、こんな話もあったかもしれないという想像を引き立ててくれます。(こんな話というのは、読んでの楽しみ。)



「苺と骨 ～大東亜戦争秘話～完全版」(武野繁泰 青林堂)

沖縄戦(約 14p)、広島・長崎の原爆、東京空襲、そして復員してきた夫たちが語るフィリピン、インパールでの悲惨な体験。

戦死とされながら復員してきた兵士と、夫戦死の報を受け再婚した妻の悲劇などが描かれています。



「あとうまさいがふー ～対馬丸撃沈事件～」天ヶ江ルチカ／著(月刊いちばん残酷なまんがグリム童話 2009年9月号 ぶんか社)

本作は、対馬丸遭難の悲劇を、疎開を薦めた側からの後悔の思いという面から描いた作品。



「第二次世界大戦紳士録」(ホリエカニコ/作 ホビージャパン刊)

実在した日独の将校を美形キャラ化して描く第一人者(だと思ふ)の作者が描く、人物像紹介のショートストーリー漫画。

本作中では、沖縄戦に関わった牛島満、長野英夫、薬丸兼教、京僧彬、神直道、大田實の6

名が紹介されている。

(事実かどうかは不明だが、)生き生きとしたキャラクター像は、どれも人間くさく、それ故どこか憎めない。



最終話「姉弟の絆、母子の軛」(「クルーズ ～医師山田公平航海日誌～第2巻」正雄原作/矢島作画/菊田洋之 小学館刊・収録)

日本最大の豪華客船「フェニックス」号。そこで船医として勤務する山田。米寿を祝って行われたクルーズ船の旅で訪れた老女は、沖縄戦で帰らなかった弟の面影に思いをはせる。

そこで息子が見せた涙に、老女は、息子に弟への期待を背負わせてしまった事に気づく……。



「戦火に消えた北京原人化石」(「名探偵コナン 推理ファイル 日本史の謎 第5巻」原作/青山剛昌 作画/阿部ゆたか 丸伝次郎 小学館刊・収録)

学習漫画です。

太平洋戦争の最中、行方不明となった北京原人の化石。集まった高校生探偵たちの推理は? そして、

コナンが導きだした推理は、沖縄の学童疎開船対馬丸の悲劇の歴史を明らかにしていく……というストーリー。



「実録 太平洋戦史 死闘! 沖縄決戦!!」 竹書房刊

2012年、沖縄返還40年を記念して発行されたコンビニコミック。

ムック扱いで、しかもコンビニ漫画なので、一般書店には置いていなかった。

内容としては、特攻作戦を中心とした戦記という面が強い。



「U. S. MARINES ザ・レザーネック」(上田信/著 大日本絵画刊)

アメリカ海兵隊の歴史、戦術と戦記を詳細に漫画で描いた作品。

第12回「沖縄本島攻略戦」では、8ページに渡って米海兵隊の沖縄戦での戦闘の様子と兵器、装備、戦術等が描かれています。



「戦争めし」 第1巻(魚乃目三太/著 秋田書店刊・収録) 「収容所の焼きめし」

降伏した日本兵が収容された沖縄本島の施設で、日本人捕虜がスパムの缶詰を使って「スパムチャーハン」を作ったところ、アメリカ人もその美味しさに感動したという話。

食文化を通じた国境を越えた心の交流は、戦争から平和への転換の象徴になっていて、おもしろい。



「義号作戦」 池内誠一/画 千田夏光/原作 (「戦争とコミック ~禁じられた戦史~」講談社刊・収録)

こちらは、義烈空挺部隊による沖縄の米軍飛行場強襲作戦を劇画化した作品。掲載は、ベトナム戦争真っ盛りの1970年代頃の「少年マガジン」。

よくぞ、復刊してくれましたという作品。しかし、収録しているコミックの作品はどれも凄惨な戦場を描いたものばかりで、今読んでも迫力ある問題作ばかりです。



「神風特別攻撃隊」(葉 剣英/作 立風書房)

こちらは、沖縄出身のパイロットが沖縄沖の米艦隊へ特攻用ロケット機「桜花」に乗って体当たりするという話。

沖縄から疎開してきた母と妹が、パイロットの青年に面会するため、九州の航空基地を訪れるが……。

刊行が1976年という、かなり古い作品。冒頭で紹介した水木しげる作品の内容に似ている。絶版。



「第二次世界大戦軍事録」(ホリエカニコ作 ホビージャパン刊)

前作「第二次世界大戦紳士録」の続編といったところ。

雑誌ホビージャパンに連載されていた本作中には、戦時中の沖縄で県民の保護に尽力して殉職した沖縄県知事・島田叡と沖縄県警察部長・荒井退蔵を紹介した貴重な3ページが存在する。

二人のことを知らない若い世代の方々には、その部分だけでもぜひ一読していただきたい。



「カジムヌガタイ」(比嘉透/著 講談社刊)

マラリアの地への疎開強要、避難壕からの追い出し、住民への拷問、少年護郷隊、廃兵の沖縄戦。戦争に巻き込まれた沖縄県民たちの物語をつづった短編5編と戦後米兵が繰り返す婦女暴行への反撃の話1編。



「砂の剣」(比嘉透/著 小学館刊)

沖縄戦を前に日本軍に進駐を思いとどませた話、子どもたちを守って懸命に戦争を生き延びた母の話等、戦時下の沖縄県民たちの物語をつづった短編6編と、戦後の米軍を襲う謎の事故を取り上げる怪奇もの?1編。



最後に、沖縄マンガの大家・新里堅進氏の知られざる作品をいくつか紹介して、締めくくります。

「珊瑚礁の墓標」(「月刊カルチュア」Vol. 1 1987年12月号とVol. 2 1988年2月号掲載)

本作品は、鉄血勤皇隊の死闘を描く作品で、期待される内容だったのですが、掲載誌自体が経営的におぼつかないものだったらしく、この2回の掲載で終わりとなりました。しかも、第2回は、原稿の扱いがひどくて、ページ順も間違っていました。原稿も紛失したのか、作品が復活することなく消えてしまった作品ですが、県立図書館では掲載誌で閲覧可能です。

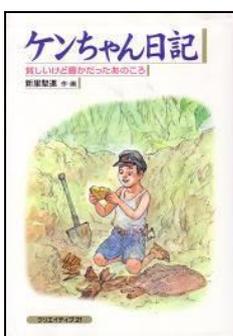


「戦禍を越えた三線 江戸与那」は、沖縄戦50年特別企画として、1994年地元紙琉球新報に連載されていた作品。

あとで作品として出版されるものと思っていたのですが出版されず、今では幻の作品となりつつあります。

当時の新聞を残していたのが救いで、こうしてカラーで紹介

できるのも奇跡に近いかもしれません。



沖縄戦を扱った漫画は、テーマ故にどうしても重苦しくなりがちです。

「防衛隊 儀間三郎の場合」(「ケンちゃん日記」 新里堅進/著 クリエイティブ21刊・収録)は、作者の創作短編です。

過酷な沖縄戦の戦場は、日米双方で精神に異常をきたした兵士が数多く出たといわれていますので、ひょっとしたらこんなストーリーも実際あったのではと思わせてしまいます。

沖縄戦を生きぬいた？ 沖縄人の逞しさというか、ユーモアのセンスがにじみでる作品ですので、こちらも一読をお薦めします。

担当/量産工房

追加



「まんが沖縄戦 -激闘の島々-」(作・画/ハンガ
一鈴木 自治労川崎市職員労働組合刊)

川崎市職労が1993年に発行した沖縄戦から今に至る沖縄理解のためのパンフレット形式のまんが本。奇跡的に入手したのだけど、刊行経緯等は不明。



「萌えよ! 戦車学校 VIII型 ~バルジの戦い・
沖縄決戦・ベルリン攻防戦~」(田村 尚也/著 野
上 武志/イラスト イカロス出版刊)

世界戦史における著名な戦車戦を取り上げて解説する美少女イラスト×ミリタリー解説本。

沖縄戦を扱った章では、日本軍速射砲と米軍戦車との激闘がマンガ化されて取り上げられている。



「沖縄戦と原爆投下 ~漫画家たちの戦争~」
(金の星社刊)

2017年刊行の本書には、沖縄戦を扱った作品として、水木しげる氏の「沖縄に散る」と梅本さちお氏の「ああ沖縄健児隊」、比嘉漣氏の「ワラビムヌガタイ」(「カジムヌガタイ」収録)が収録されている。



「新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 戦争論3」
(小林よしのり/著 幻冬舎刊)

「第11章 沖縄戦神話の真実」で、慶良間の集団自決の真実に迫る論考を発表している。

追加2 沖縄戦テーマの県産コミック等

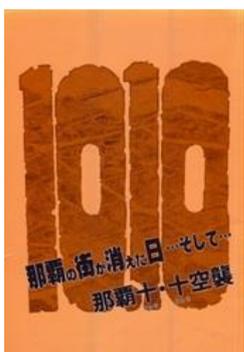
県外の方々のために、書誌情報を紹介しておきます。



「劇画 沖縄決戦」(新里堅進/作・画 首礼企画刊)

新里堅進氏の同名のデビュー作を再刊したもの。

1978年に月刊沖縄社、1989年にほるぷ社、1996年にクリエイティブ21から刊行された。



「那覇の街が消えた日……そして……那覇十・十空襲」(画/新里堅進 那覇市平和振興室刊)

那覇市が1990年に刊行した那覇十・十空襲を伝えるマンガパンフレット。

古いので絶版。



「劇画 ひめゆりたちの沖縄戦」(ほしさぶろう/作画 閣文社刊)

ひめゆり学徒隊を取り上げた漫画。



「水筒 ~ひめゆり学徒隊戦記~」上下巻(作画/新里堅進 ほるぷ社刊)

ほるぷ版は絶版だが、他社からも複数刊行されているので、今でも入手可能。なお、初出は、琉球新報の夕刊でカラー連載されていた。(どこかに保存していたかな?)



「白梅の碑」野戦病院編、戦場彷徨編(作画/新里堅進 クリエイティブ21刊)

白梅学徒隊を取り上げた作品。



「ひめゆり学徒隊物語 弾道」第1部、第2部(作・画/与勝海星 那覇出版社刊)

ひめゆり学徒隊を取り上げた漫画。2巻作



「シュガーローフの戦い～日米少年兵達の戦場～」上中下巻(作画/新里堅進 琉球新報社刊)

沖縄戦最大の激戦地となったシュガーローフヒルの攻防戦を、日米両軍の少年兵視点で描いた漫画作品。



「死闘伊江島戦」上下巻(作画/新里堅進 琉球新報社刊)

あまり知られていない伊江島戦を取り上げた漫画作品。新里堅進氏の最新作。なお、氏はコミティアでも作品を発表したらしい。



「マンガで伝える沖縄戦」上下巻(作/仲本文子 琉球新報社刊)

子供向けに作られた沖縄戦理解のための漫画作品。住民視点の証言を元にした作品。



「命の架け橋 Dr. 上村昭平物語」(マンガ/保里安則 医療法人海秀会上村病院刊)

沖縄戦マンガではないが、上村昭平医師の戦時中の体験が20Pに渡って綴られている。

コミチャンが関わったマンガでもある。



「対馬丸沈没」(与勝海星/著 沖繩文化社刊)
対馬丸遭難事件を取り上げた漫画作品。

以下は、厳密に言うと沖縄戦まんがではないが、戦時中の県人の戦争体験や出来事が描かれた学習漫画等。



「戦場サイパンからの脱出」 まんが/中村仁
原作/喜武初子 (「焼けあとのイチ ～子どもたちの戦争体験～」創価学会婦人平和委員会編 第三文明社刊・収録)



沖縄からサイパンに移住した初子たち一家。1944年7月、サイパンは米軍の猛攻を受け、初子たちも戦火の中をにげまどう。島という逃げ場のない戦場で次々と失われていく命。



「その日、ハイビスカスの花は赤かった」

「まんが日本の歴史 11 昭和戦前期～一五年もつづいた戦争～」(大月書店刊・収録)



疎開船対馬丸の悲劇から十・十空襲、そして地上戦と沖縄戦の概略と米軍基地が重くのしかかる現在に至る沖縄の歴史。



「二度の原爆投下に立ち会ったチャールズスウィニー」
「不屈の大空 激闘篇 航空人列伝」(たなかでつお/著 学研刊・収録)

強行される小倉への原爆投下作戦。しかし、運命はぎりぎりのところで原爆を長崎へ投下させる。そして、原爆を投下したB29「ボックス・カー」は、沖縄へ緊急着陸する……。

長崎への原爆投下と沖縄の関係。



「極東に領土紛争残したルーズベルト」
「マンガ教科書が教えない歴史」(藤岡信勝/自由主義史観研究会/原作・監修 ダイナミックプロダクション/作画 産経新聞出版刊・収録)

ルーズベルト米大統領は、カイロで行われた会議で、蒋介石に沖縄に対する領土提案を持ちかけたという。



「ペリリュー -楽園のゲルニカ-」第 7、8、11 巻(武田一義/著 白泉社)

ペリリュー島(内南洋)での日本軍兵士と米軍兵士との死闘を描く。

日本軍玉砕後も必死で生きながらえてきた主人公たち。第 7 巻では、同じように生き残っていた沖縄出身者の軍属たちと出会い、米軍の目をくぐりぬけて生き延びるために力を合わせる。

文字で書くときれいだが、悲惨な戦場、米兵による日本兵捕虜の虐殺行為、そして戦後も終戦を信じず仲間同士で殺し合う地獄が描かれている。

追加3

補足情報

①「**劇画 沖縄健児隊 ～少年達の生と死～**」(作画/新里堅進 琉球新報社 未単行本化作品)

琉球新報で 2004 年 5/7～2006 年 4/28 まで、毎週 1 回 2 頁ずつフルカラーで連載された。全 96 回。

②「**沖縄決戦**」(編/東京作画会 あかしや書房刊)

貸本まんが。沖縄戦を取り上げた最も古い漫画と推定される。詳細不明。

③「**防衛隊 儀間三郎の場合**」(新里堅進/著)

月刊コミック沖縄 第 23 号 1989 年 2 月号 コミック沖縄社刊 掲載。

④「**命どう宝 - 「水筒」戦後編より- 「ひめゆりの塔」と一教師の戦後**」(新里堅進/著)

別冊コミック沖縄 同窓会スペシャル(1999 年 あびい刊)掲載。

⑤「**こんなはなしをきいた What happened Northern Okinawa1945**」

新里堅進氏が 2023 年 12 月コミティアに出店した時の作品。あまり記録に残っていない沖縄本島北部での戦争を描いたものらしい。詳細不明。

⑥「**島守の記 ～沖縄戦で県民 20 万人の命を救った島田叡知事と荒井退造警察部長～**」(小柳真弓/原案 渡周子/作画 悠人書院)

沖縄戦で、県民保護に努めた知事・島田叡と警察部長・荒井退造について学ぶ漫画。

長野県の小出版社が刊行したネット通販本。沖縄県内では知られていない作品。私も最近確認したばかりで、未入手。